

ご挨拶

いつもご支援ご指導頂き、ありがとうございます。
 新型コロナウイルス第6波のさなか、2月・3月議会が開催されました。
 議会では私にとって初めてとなる、予算特別委員会の委員として、来年度予算審議に参画しました。5日間にわたる部局別質疑、知事に直接質疑できる総括質疑、そして提案された附帯決議に対する討論等、委員会審議を通して一層、埼玉県予算に対する理解を深めることができました。

会派の委員数に応じて質疑時間が配分されるため、残念ながら質疑時間は十分とは言えませんでした。今回の経験を今後活かしていきたいと思えます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大に伴うまん延防止等重点措置が3月21日に解除されました。

令和4年度は富士見市政施行50周年にあたり、様々な行事が予定されております。そして私にとって今任期最後の1年となります。感染に注意しつつ、充実の1年になるよう頑張っておりますので、引き続き宜しくお願い致します。

県議会議員 八子朋弘

★やこ朋弘 プロフィール

昭和48年8月15日生(48歳)しし座・B型
 富士見市立勝瀬小学校卒業(少年野球チーム・クリッパーズ所属)
 富士見市立勝瀬中学校卒業(野球部・生徒会)
 埼玉県立松山高校卒業(応援団部団長・生徒会長)
 國學院大学法学部法律学科卒業
 (弁論部・野球サークル会長・川越身障者団体「たんぼぼ」お風呂介助)
 参議院議員秘書8年半在職
 富士見市議会議員(4期)・副議長 草の根代表



▲応援団長として

家族

勝瀬に父(新潟県出身)、
 小学校から大学まで全て
 同じ経歴の弟(さいたま
 市在住)、西みずほ台に
 妻と長男(18歳)・長女
 (15歳)・次女(6歳)



現在 (子育て奮闘中)

富士見市野球連盟 事務局長・審判部
 富士見市野球連盟「スパローズ」監督
 富士見市ソフトボール協会「ベンツ」メンバー
 富士見市少年野球連盟所属「エンゼルス」代表
 勝瀬ふじみ野サッカークラブ 顧問
 関沢小学校PTA 顧問
 西中学校PTA 本部役員
 西みずほ台保育園・針ヶ谷保育園 理事
 福祉NPOグループみずほ 監事
 競技かるたチーム「ちはやふる富士見」顧問
 松山高校応援団OB会 事務局

ブレない!
 「草の根」の挑戦!!

【県政レポート】

やこ通信

No.54

令和4年4月発行

Topic.
 「予算特別委員会」

f Tomohiro Yako



やこ朋弘 公式HP
 yakogo.com

県議会議員

やこ朋弘 48才

無所属県民会議 富士見支部 (県議会議員やこ朋弘事務所)

〒354-0018 富士見市西みずほ台3-3-11 ハイツみずほ台108号

エコー ヤコ ヤコ ☎ 090-4546-8606

☎ 049-255-8585 ✉ yako@yakogo.com

予算特別委員会報告



県議会の予算特別委員会は各会派から選出された32名の委員で構成され、私の所属する無所属県民会議からは5名が出席しました。

部局別質疑では会派に24分、総括質疑では47分時間が割り当てられ、会派の委員でその時間を割り振りました。

私は部局別では8分の時間を頂きました。
主な質疑項目は以下の通りです。

福祉部

- 岡山の児童虐待事件を受けて、埼玉県ではいかに対応するか
- 児童養護施設の人手不足について
- 里親等委託の推進について
- 養育費確保の支援策について 等



企業局

- 上南畑産業団地整備に伴う水害対策と地元説明会について



保健医療部

- 産後ケア事業（宿泊型）の拡充について
- ふじみ野市で発生した事件を受けて、在宅医療の担い手確保について
- ペットの殺処分0に向けて
- 朝霞保健所の分割について



下水道局

- 二酸化炭素排出量を減らす汚泥消化施設の導入について



教育局

- スクールソーシャルワーカーの常勤化について
- フリースクールとの連携について
- 県立高校の低倍率への対応について 等

また、総括質疑では15分の時間を頂き、

- 年々規模が膨らむ予算に対する認識
- 更なる行財政改革の推進
- ウクライナからの避難民の受け入れについて 等

上記、直接知事に質しました。



委員会の最終日には自民党から提出された附帯決議案に対し、会派を代表して「決議の内容は一部を除き、そのほとんどが予算特別委員会における執行部の答弁によって担保されているため、あえて附帯決議を付す必要性に疑問を感じざるを得ない」との反対討論を行いました。

※附帯決議は賛成多数で可決されました。

今回の経験をもとに、更に精進してまいります。



県立中高一貫校について

私の所属する文教委員会において、県立中学校設置の障害となっていた、附帯決議が撤回されました。

埼玉県には、県立中高一貫校に「伊奈学園」があります。しかし、これが“唯一”の県立中高一貫校です。なぜ唯一の県立かという点、平成14年(2002年)、中高一貫校の設置に関する条例を改正する際に、その年の埼玉県議会6月定例会において、「県立中高一貫校は試行的・モデル的に限定して設置すべきものであり、(中略)当面の間この限りとするを強く求める。」との附帯決議が自民党より提案・可決され、この効力が今日まで続いていたためです。



他県で実績を重ねる中高一貫校が増える中で、近年、様々な会派から付帯決議見直しを求める声が増えてきました。私も県内私立高校の多くが中学校を併設している昨今、県立中学校設置の必要性を痛感していました。

長年の紆余曲折を経て、昨年末の12月議会では、教育委員会が議会に向けて、これまでの伊奈学園の成果や今後の課題の分析・報告を行い、撤回に向けたプロセスが整いました。

今後、県議会で更なる議論を重ね、埼玉県でも第2、第3の県立中高一貫校が設置され、埼玉の子供たちに多様な選択肢が示せるよう取り組んでまいります。

ブレない! 「草の根」の挑戦!!